

第4期横浜市南区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会にかかる意見書（集約）【確定版】

施設名： 横浜市中村地域ケアプラザ
 応募団体： 社会福祉法人秀峰会

委員名	意見（評価できる点等）	質疑	回答
八森委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動を、高齢者、子ども、障がい児・者などの広い領域で行っている 体系的な人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> 「プラスワン」の発想は具体的にどのような活動や事業内容に反映されたか、情報提供いただきたい。 災害への取り組みについて情報をいただきたい。 	<p>「プラスワン」は令和2年度における事業企画運営の考え方として掲げたもので、現時点では（ケアプラザの活動が一時的に制限されているため）まだ実績はありません。内容と計画として以下の通り例示します。</p> <p>① 既存の事業を継続するにあたっては、新しい要素を加味して取り組む（事業対象を広げる、人気事業の回数を増やすなど）</p> <p>⇒ 地域ケア会議では「地域防災」をテーマに各町会単位レベルの規模で実施を計画 ⇒ オープンカフェに数回音楽演奏等のプログラムを追加して「ミュージックカフェ」を計画</p> <p>② 3つのキーワード（フレーズ）に沿って、新しい事業を起こす。</p> <p>⇒ 地域食堂の開設を目的にボランティア育成や実施準備の調査を計画 ⇒ デイサービス等のボランティア人材の募集先を高校生等若年層まで広げ、新たなリソースを獲得することを計画</p> <p>災害への取り組みについてはおおよそ以下の通りです。</p> <p>① これまで実施してきた独自の防災訓練（避難誘導、消火・通報、AED操作）の継続実施 ② 福祉避難所としての準備：所内のシミュレーション訓練の実施と連合町内会への「福祉避難所の機能」アピール ③ 連合町内会実施の合同災害訓練や中村2丁目東町内会実施の防災訓練への継続参加</p>
加賀美委員	<p>高齢化率と高低差が大きい坂の町ですが、昔からの古い町で住民間の交流が根付いていると思われる。高齢者も多く、高齢者を対象とした事業が盛んに行われ、益々老若男女と地域ケアプラザが二人三脚で更に発展するものと確信しています。頑張ってください。</p>	なし	
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が多い事で互助を進めている事 高齢者が増え続けている中でボランティアの人材に中学生を巻き込んでいきたいとこの事、実現させてほしい。 オープンカフェは高齢者の居場所作りになっていると思う。 	なし	
川井委員	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特徴と課題がケアプラザの事業展開へとつなげられていることを理解しました。キーワードを元に進める事業が地域を変える力になることを推察して期待します。 運営ビジョン、団体の状況、職員の配置及び育成、事業、収支計画及び指定管理料の考え方について理解しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 「事業展開のキーワード（事業）」に記載されている項目に対する具体的な策を伺いたい。 民児協の関わりについて伺いたい。 	<p>主な事業具体策は以下の通りです。</p> <p>1. 多様なニーズに応える：①脳トレウォーキングの継続と拡大（日数を増やして分散させる等） ②小児科医による「子育て支援講座」の実施 ③介護や健康等に関する出張相談会の継続実施</p> <p>2. 入りやすいC P：①入口照明、掲示板の整備 ②プランター等の設置（環境美化） ③オープンカフェなど、自由に参加できる事業の拡大実施</p> <p>3. 地域連携：①コラボイベント（オープンカフェ等）の継続と拡大 ②老人クラブ、サロンなどへの継続参加とプログラム提供、出張相談会実施など</p> <p>地区民児協の定例会はケアプラザをご利用いただいております、当方からも適宜情報提供等を行っています。また地域ケア会議の際には必ず該当エリアの民生委員の方にご出席いただき、地域のご意見をいただける場としています。また、最近では民生委員さんからの連絡で包括職員が課題のある高齢者を個別訪問するなど、相互に情報を提供し合う関係性ができています。</p>
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 自主事業からボランティアグループの立ち上げ。そして、地域で活動している様子がよく伺えます。まさに、ケアプラザの自主事業の必要性を感じました。 地域サロンの参加者の特徴を踏まえ、出張講座や相談会を積極的に開催されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 5事業(4)地域包括支援センター運営事業 カ指定介護予防支援事業 予防プランの委託先で、区内の居宅介護支援と日頃から関係作りで注意している点はありませんか。 	<p>居宅介護支援事業所は常に取り扱うプラン数の増減がありますので、一つの事業所に過負荷にならないよう、電話連絡などで先方の受け入れ可能状況を理解したうえでプラン委託をお願いするようにしています。</p> <p>また地区内で活動するケアマネジャーを対象とした研修を実施したり、地域向け研修に参加をしていただいたりするなど、コンスタントに地域情報を提供することなどを心がけています。</p>
中根委員	<p>多世代交流とも書かれていますが、連合町内会を中心に、人と人の結びつきがとて強い地域です。その中で互助をテーマに連携を広げていこうとされている取り組みがよく伝わってきます。プラスワン発想もとても前向きでよいと思いました。</p>	<p>近隣機関との連携で具体的な事を教えてください。</p>	<p>R1下期から障がい作業所「どんとこいみなみ」「へいへいほー」のみなさんによるパン販売を始めました。コーヒーボランティアさんとのコラボ企画でオープンカフェとしたところ、好評を得ています。</p> <p>「おもいやりハウス」は拠点での活動開始前から野菜やパンの販売、子ども向けイベントの共催など多くの場面で連携しています。</p> <p>中村小学校などでは認知症キャラバンの特別授業やキッズクラブでの音楽演奏に伺うなど、特別授業や課外イベントの協力をしています。</p>
高羽委員	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化率が高く、地区内の高低差が大きい「坂のまち」だが、その分「町内の結びつき」夏の祭礼があり多世代交流が根付いている。 ご近所同士の集まりを大切にしているので、20か所の高齢者サロンや子育てサロンに力を入れている。 若い人たちの人材育成を頑張してほしい。 職員の個別の業務目標設定と振り返りを事業単位で行っているところ。（期間中のミッションを明確にしてモチベーション向上に努めていること。）職員として、それぞれの立場を活かしてもらえらるということは、がんばりがいもあるとありがたいことです。 	なし	
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 運営ビジョンが明確で幅広い年齢層の交流を促進 認知症キャラバン隊と小学生の連携は特に有意義である 職員は有資格者やベテランが多い印象を受ける 	<p>基本的な方針の一つに、長く働ける職場を目指しておられますが具体的にやっていることを教えてください。</p>	<p>職員個別の業務目標設定と振り返りを半年単位で行い、期間中のミッションを明確にしてモチベーション向上に努めています。</p> <p>また、一つのプロジェクトには必ず複数の職種で関わり、それぞれの立場を活かしたり連携したりできるようにチームを組んで進めています。業務集中を避け、また行き詰まり感を防ぐことも目的としています。</p>